各関係機関長殿

岡山県病害虫防除所長

病 害 虫 発 生 予 察 情 報 に つ い て 病害虫発生予報第1号を下記のとおり発表したので送付します。

令和5年度病害虫発生予報第1号

令和5年4月5日岡 山 県

予報概評

作物名	病害虫名	発生時期	発生量	作物名	病害虫名	発生時期	発生量
麦類	赤かび病	早	やや多	タマネギ	べと病	_	やや多
モモ	灰星病 カメムシ類	早 早	並 やや多	イチゴ	ハダニ類	_	やや少
イチゴ トマト ナス	灰色かび病	_	並				

1 普通作物

(麦類)

(1) 赤かび病

予報内容

発生時期 早

発生量やや多

予報の根拠

- ア. 岡山県農林水産総合センター農業研究所の麦作況試験の調査では、麦の生育は平年より早い傾向で推移している。
- イ.3月30日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病をやや助長する条件である。

防除上の参考事項

- ア.本病の第一次伝染源である子のう殻の形成が盛んになるのは、日平均気温が 13℃以上で降雨の直後である。子のう胞子の飛散が盛んになるのは、日最高気温が 15℃以上でかつ、日最低気温 10℃以上、湿度 80%以上または降雨直後である。この条件からみると岡山市のアメダス気象観測値では、子のう殻形成好適日は3月中旬および子のう胞子飛散好適日は3月下旬から見られた。
- イ. 赤かび病は出穂期以降の気温が高く、湿度が高いまたは降水量が多いと発病が助長される。
- ウ. 気温が高く推移した場合には、出穂期が前進化するため防除時期を逸しないよう注意する。
- エ. 国内産麦類の検査規格では、赤かび病による被害粒が 10,000 粒中 5 粒以上混入する と「規格外」となる。
- オ. 令和4年度植物防疫情報第8号(令和5年3月27日発表)「麦類赤かび病の防除の 徹底について」参照。

2 果 樹

(モ モ)

(1) 灰星病(花腐れ、芽枯れ、枝病斑)

予報内容

発生時期 早

発生量 並

予報の根拠

- ア. モモの開花時期は、平年より早い。
- イ.3月30日発表の1か月予報によると、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

(2) カメムシ類

予報内容

発生時期 早

発生量 やや多

予報の根拠

- ア.3月30日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、発生を助長する条件である。
- イ. 4月~7月のチャバネアオカメムシ及びクサギカメムシ予察灯飛来数は、前年2月~5月のスギ・ヒノキ花粉飛散数との間に高い正の相関がある。岡山県における昨年 2月~5月のスギ・ヒノキ花粉飛散数は、南部で平年並であった。
- ウ. 花粉飛散数を利用した予測式によると、本年 $4 \sim 7$ 月の予察灯(赤磐市)への飛来 予測数はチャバネアオカメムシが 510.0 頭(平年 294.2 頭)で平年より多く、クサギ カメムシが 29.4 頭(平年 48.4 頭)で平年より少ないと予測される。

3 野菜

(1) イチゴ、トマト、ナスの灰色かび病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 4月3日の巡回調査によると、ナスでは発生を認めず、トマト及びイチゴでの発生 圃場率はそれぞれ 50.0%、16.7%と、いずれも平年(ナス: 4.0%、トマト: 45.8%、イチゴ: 19.2%)並であった。

イ. 3月30日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

(2) タマネギベと病

予報内容

発生量やや多

予報の根拠

ア. 4月3日の巡回調査によると、発生圃場率は60.0%で平年(38.5%)よりやや高かった。

イ. 3月30日発表の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 気温 15℃前後で雨が多いと多発生しやすい。

イ. 令和4年度植物防疫情報第9号(令和5年3月28日発表)「タマネギベと病に注意 してください」参照。

(3) イチゴのハダニ類

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 4月3日の巡回調査によると、発生圃場率は16.7%で平年(46.7%)より低かった。 イ. 3月30日発表の1か月予報によると、気温は高いとされており、発生を助長する条件である。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/ です。